516

婦利々々

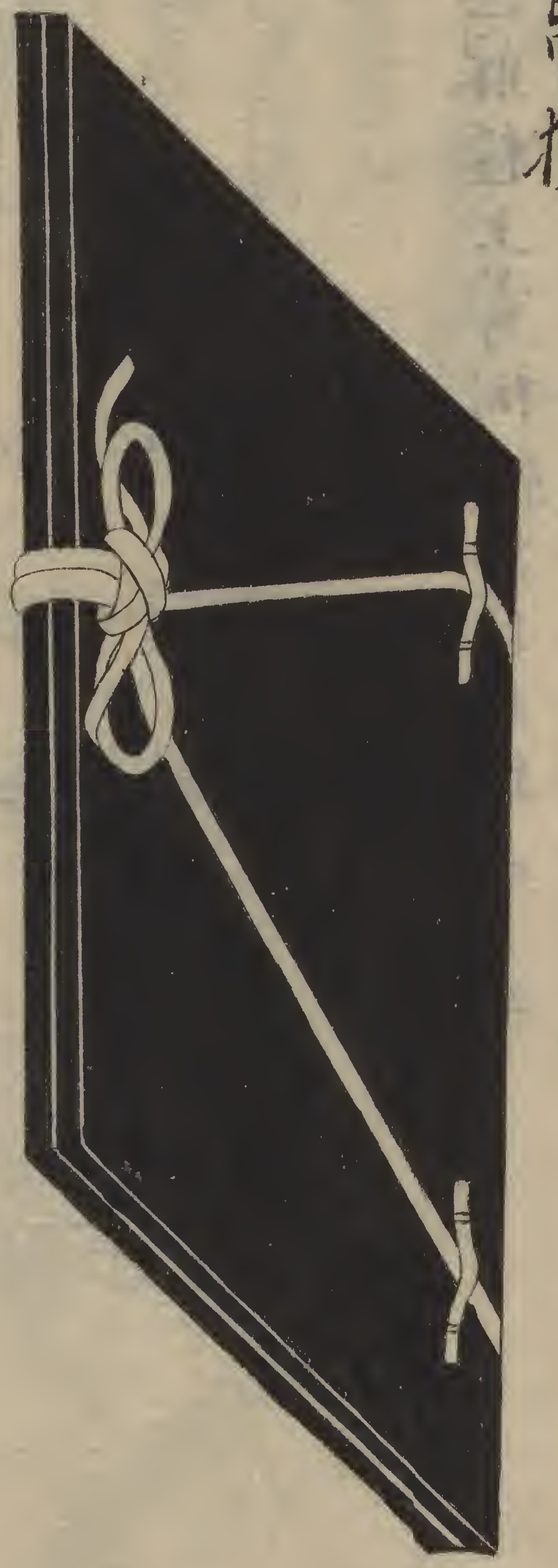
惣躰仕成本金

置上ヶ極彩色真

紅ノ總角結如斯

彩色表同断

艸帋挟



惣躰極上檜端込入ニ〆貮枚也　長　九寸壱分半

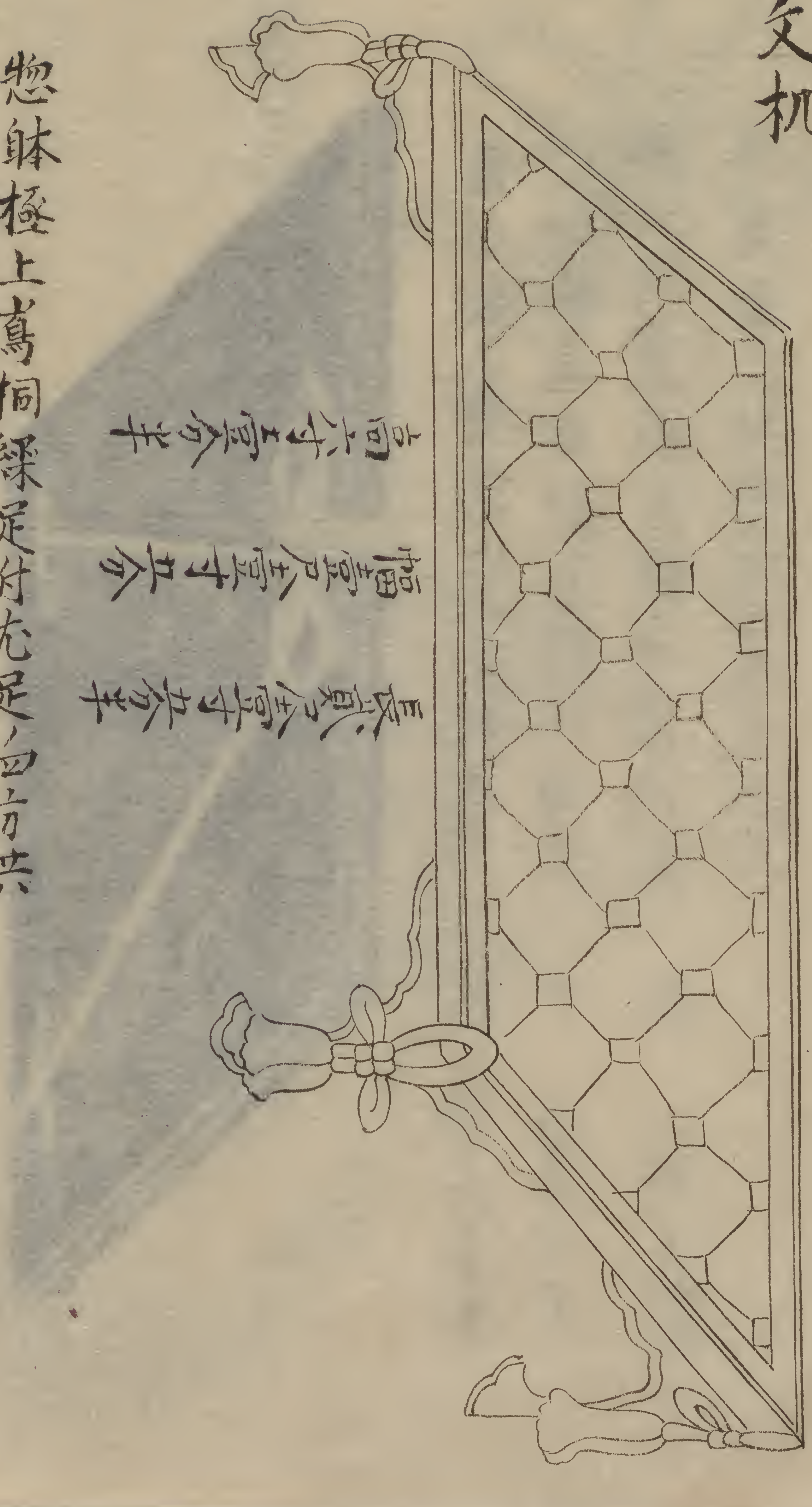
竪地蝋色塗銀南鐐竹ノ節金　巾　六寸四分半

物三所裏表ニ付紐ノ巾四分内紀　厚　二枚ニテ五分

打ノ白紫〆切販染也長凡六尺

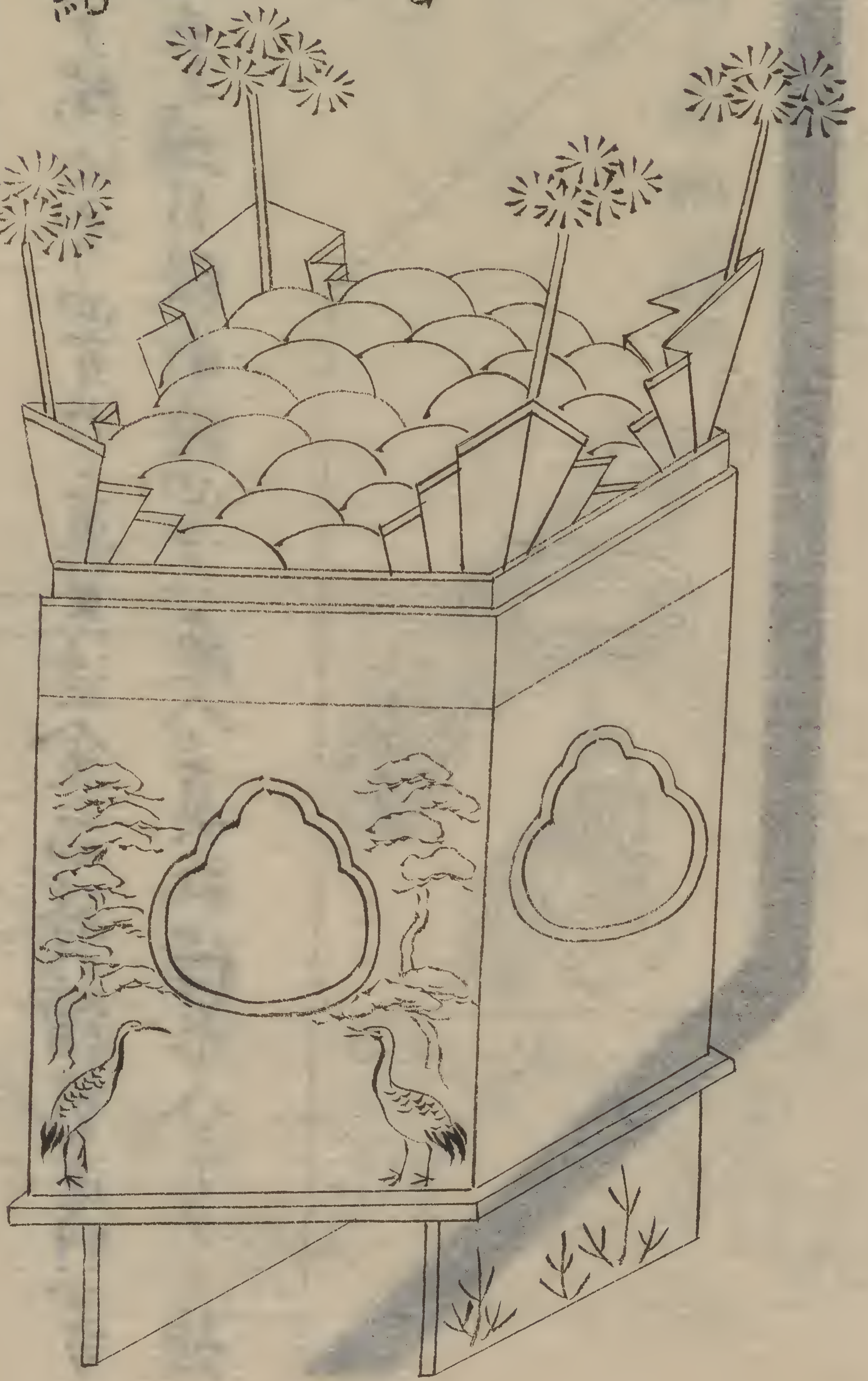
文机

惣躰極上蒔桐縲足付尤足ノ四方共銀南鐐ノ覆輪机ノ甲今織萠黄地ノ蜀紅ノ錦ニテ張但シ四方白紫ノ切床染ノ啄木ニテ伏セ四方足ノ所ハ總角ニ結下ケ



折櫃

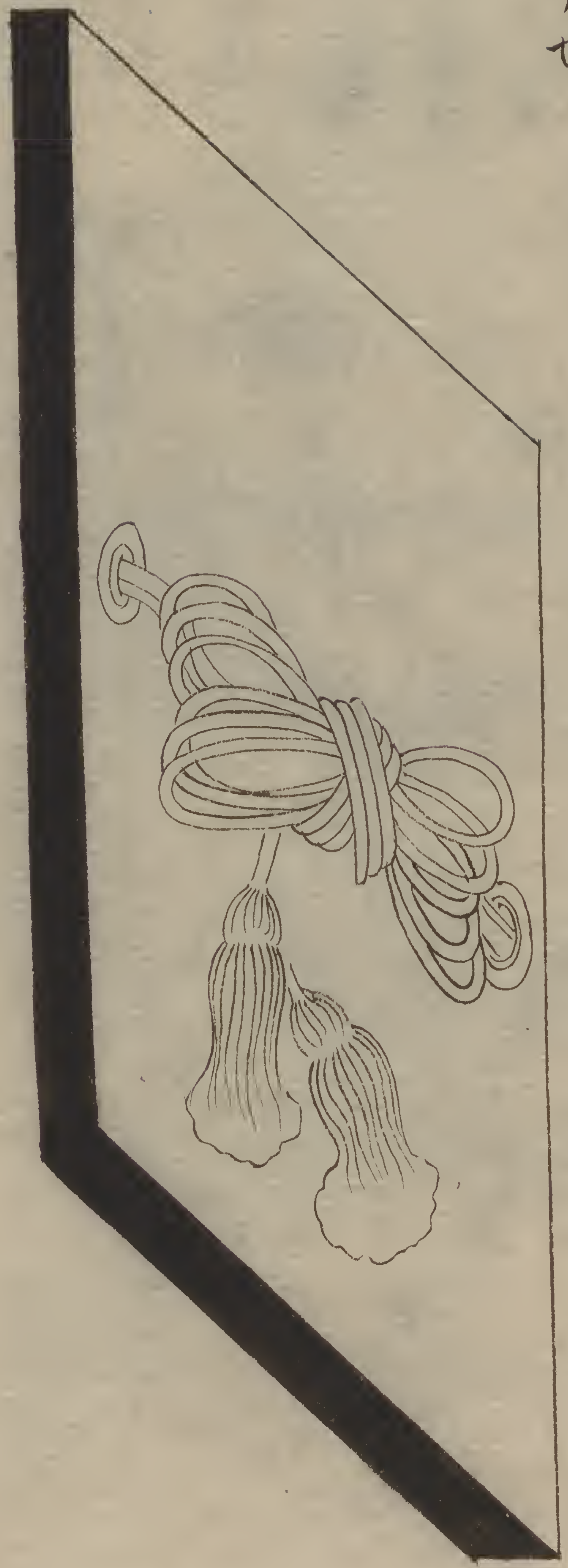
惣躰白塗雲母引四方縲穴ノ縁上ノ小口糸縁木金箔押極彩色老松鶴四方ニ畫足ハ若松内入子ハ内外共縁青塗甲ニ鳥ノ子ノ重紙四隅ニ糸花唐松四本立黄ハ赤ノ綿糸二筋ヲ以總角結



板文庫

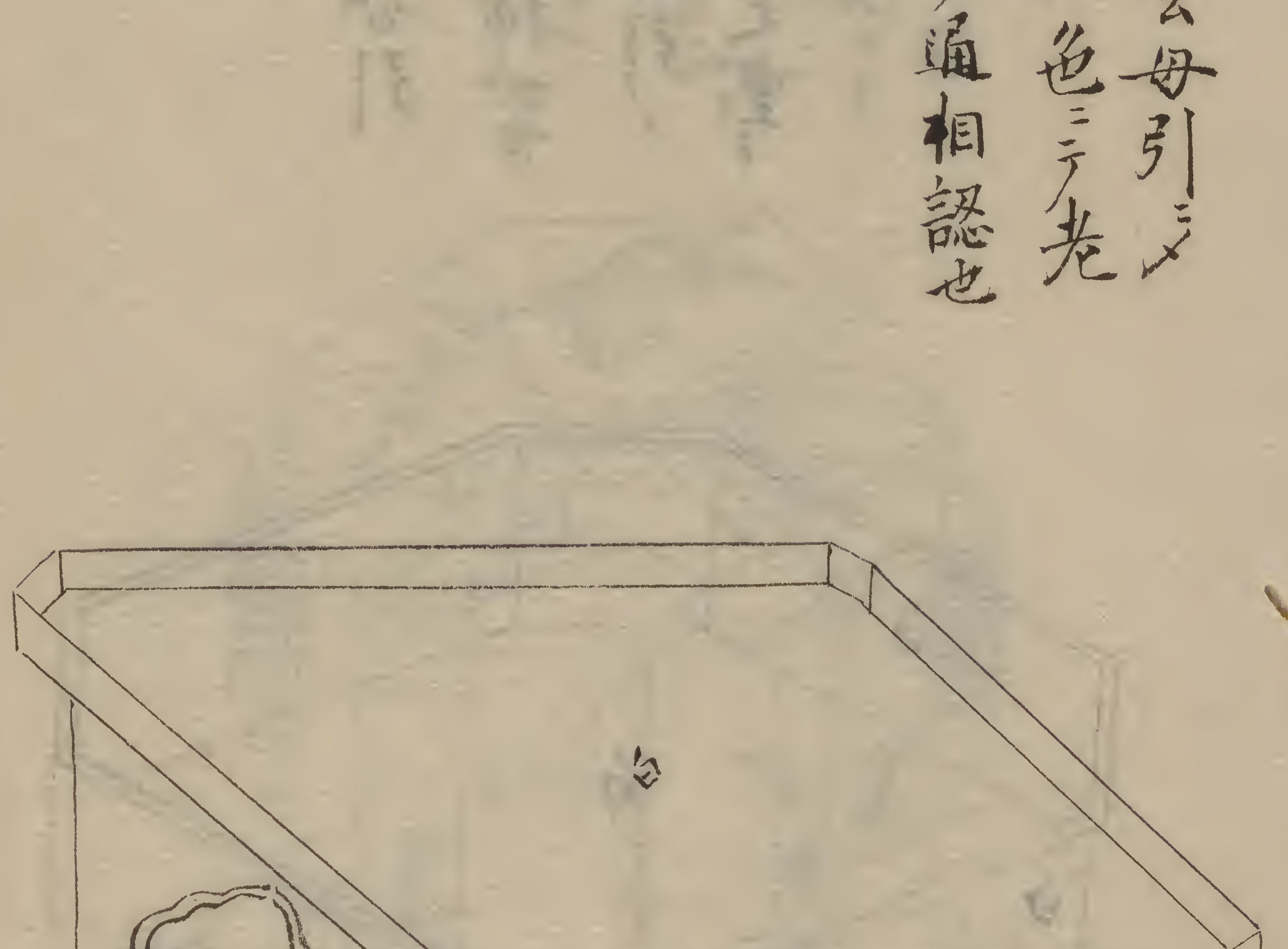
長八寸七分
巾七寸
厚四分

惣躰極上眞桐ニテ端込入リ四方共ニ真黒塗金高蒔繪菊唐艸四方ニ付裏ニ紐通シノ樋在之鵐目銀南鐐四分一座ヘシ真紅縷糸八ツ打ノ紐長ソシテ付ル也



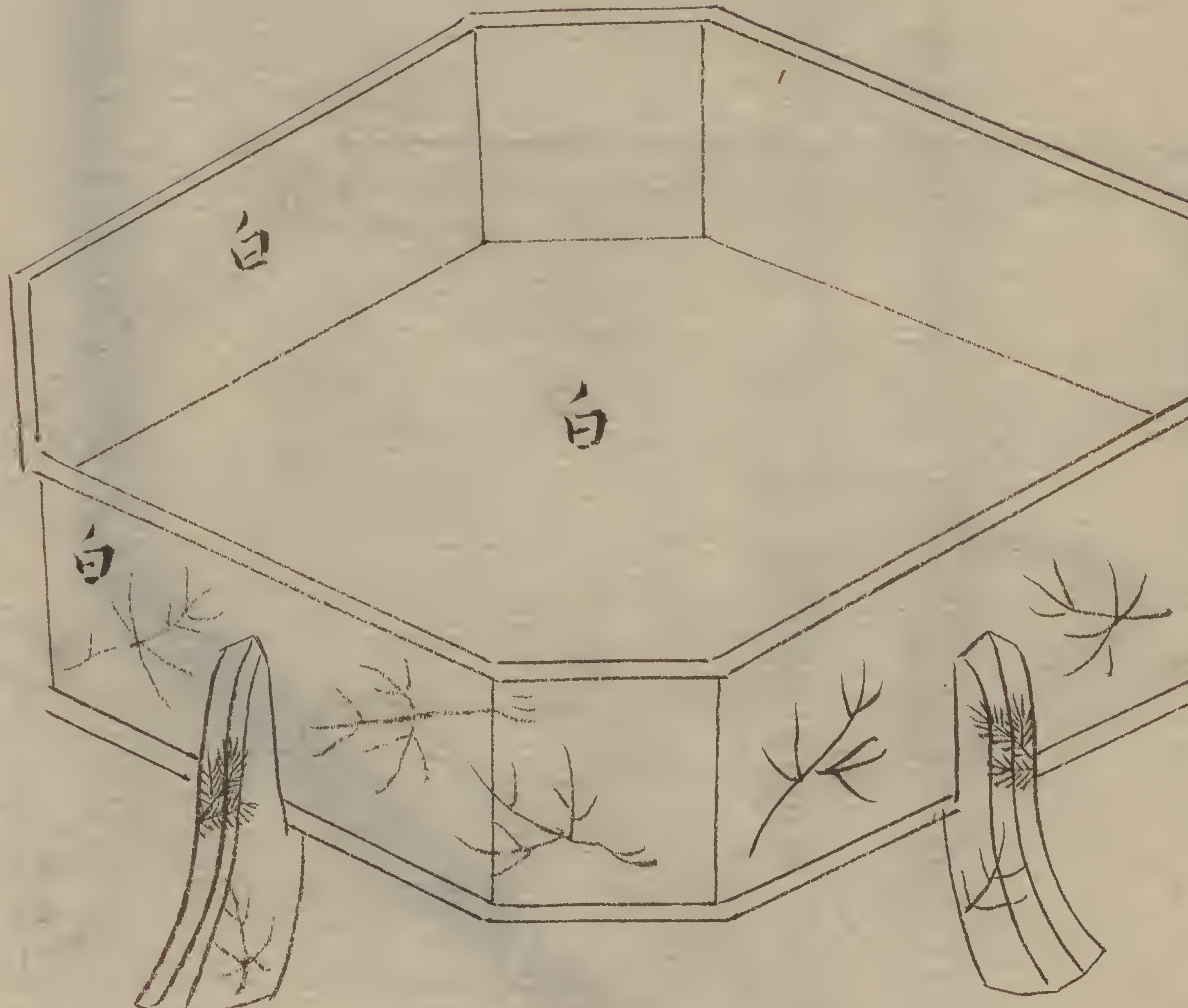
衝重

惣躰白塗雲母引ニメ足ノ四方極彩色ニテ老松ニ鶴繪圖ノ通相認也



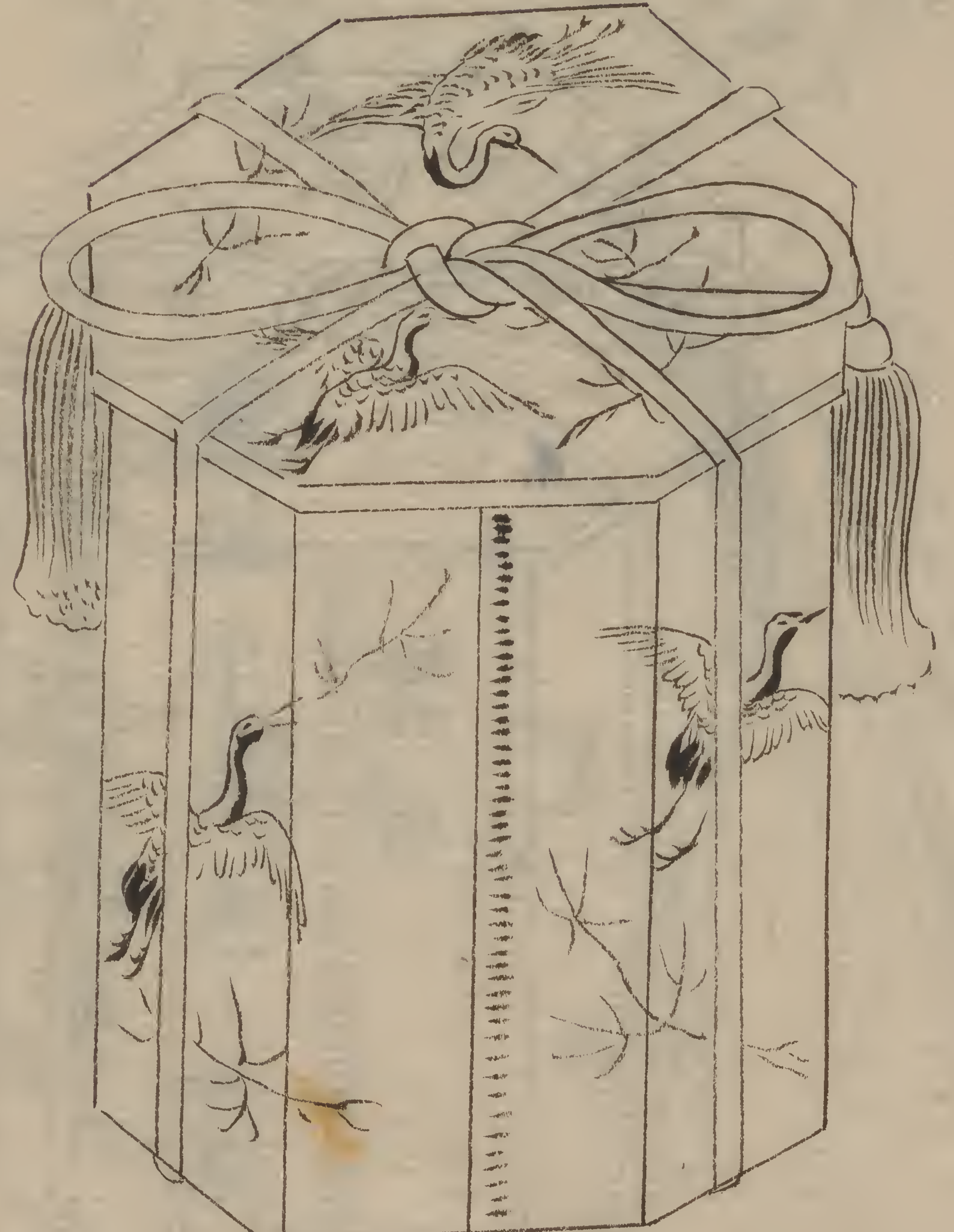
緣高

惣躰白塗雲母引
上之緣金箔押四方
足共極彩色根引ノ
松ヲ畫但シ四季之重子(カサネ)
〆帋ニテ折居ニ入候ナリ

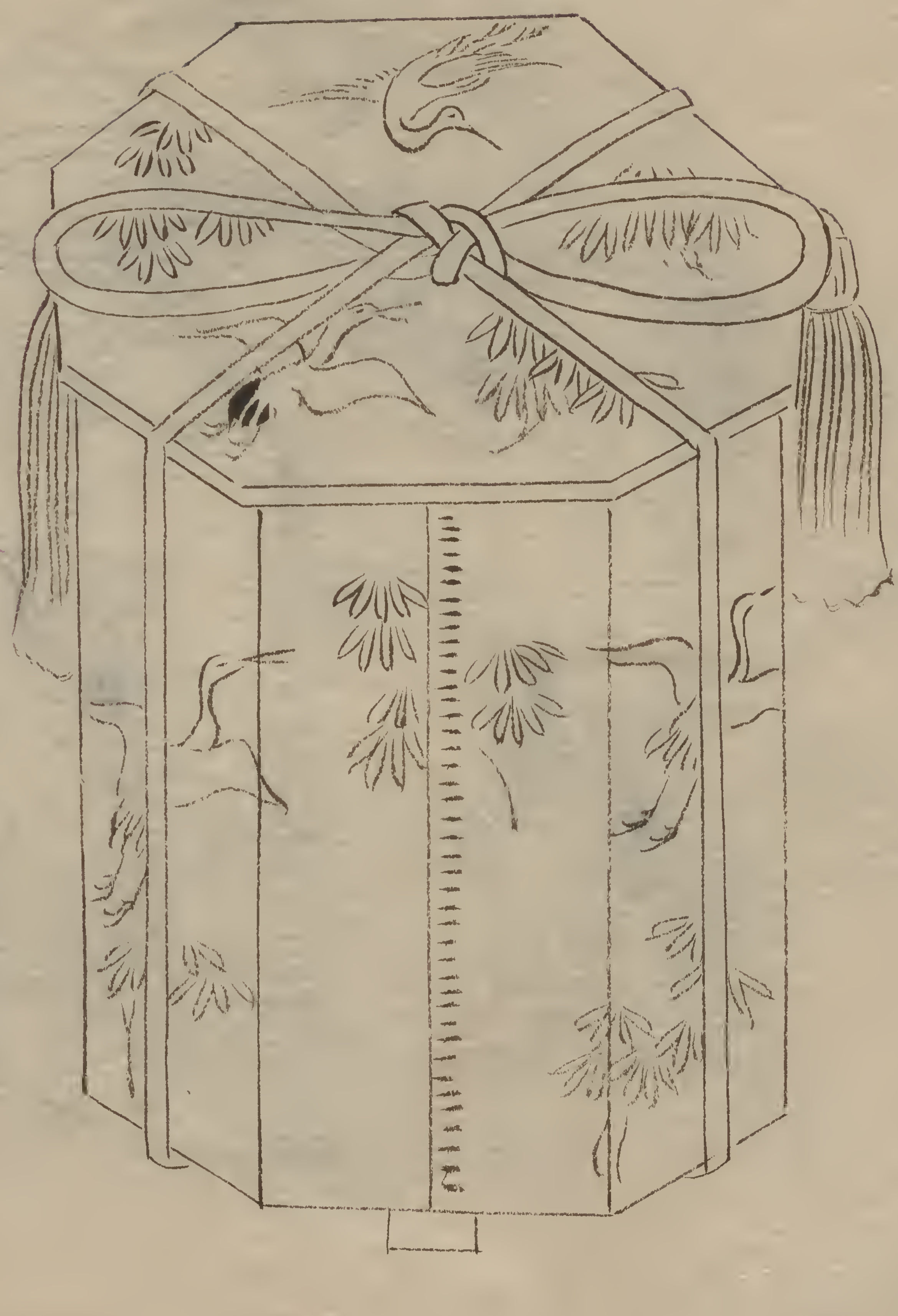


千歳桶

惣躰正目ノ島杉
ニテ八角足付但シ
廻リ棧蓋松重子
八ツホノ紋置上ケ
極彩色如圖



同
一方ハ若松ニ鶴
一方ハ竹ノ枝鶴
壹對也



端午長命縷

惣躰糸花色ニ如斯
五色ノヒカケ糸附

重陽茱萸嚢

菊ハ糸花茱萸ハ倲玉
嚢ハ絩綾上袋ハ絩生絹
ニテ包ミ紅平打安田紐
ニテ結

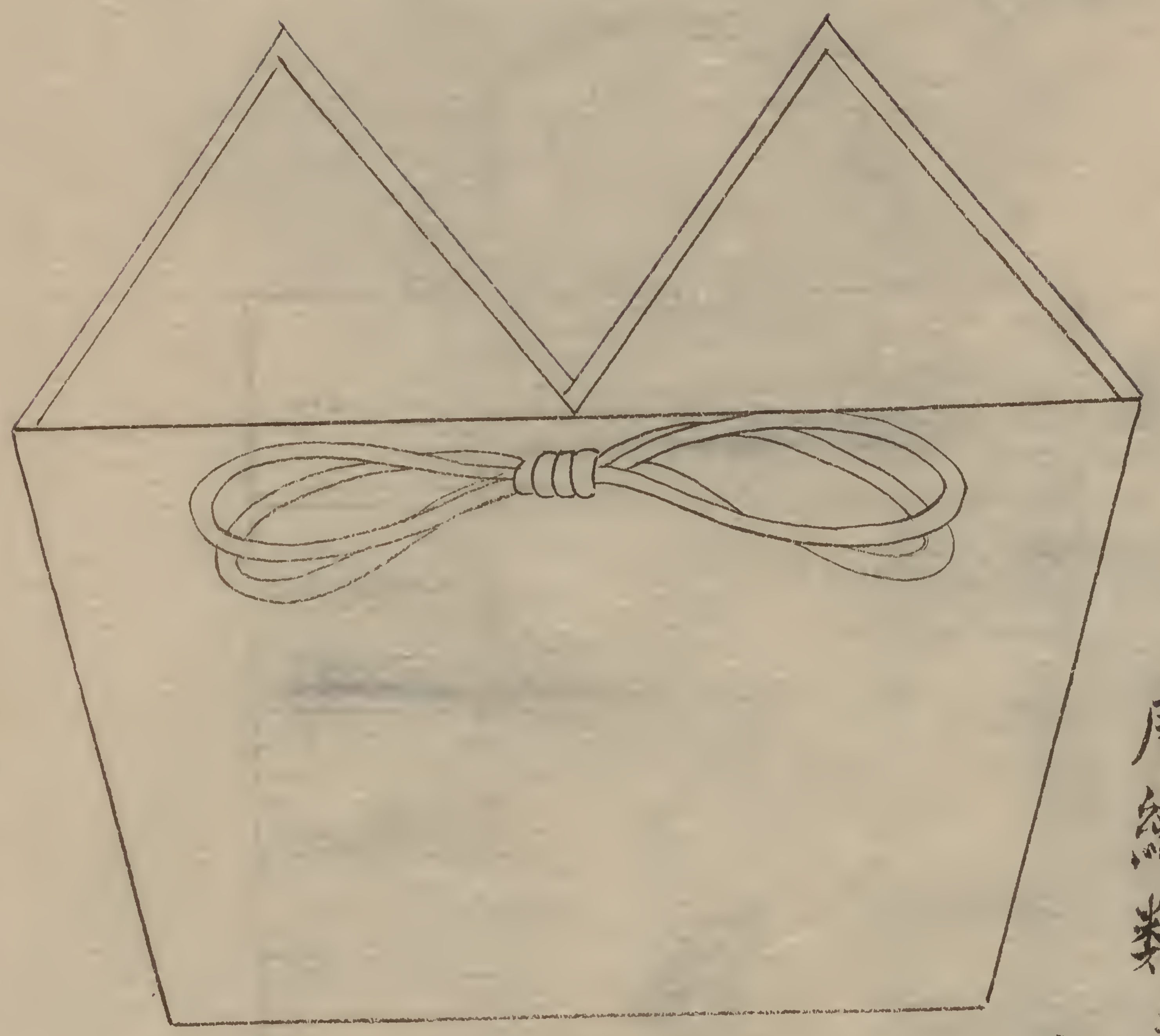
歌嚢

表萠黄
裏紫

金泥引砂子泥繪松重ニメ
御詠艸其外御和歌類入候御品

右ハ御歌為題御蛙ノ和歌ヲ書

倭嚢



是ハ表地綾地染緒又ハ唐織類ニテ裏ハ白緒或黄緒紐ハ赤

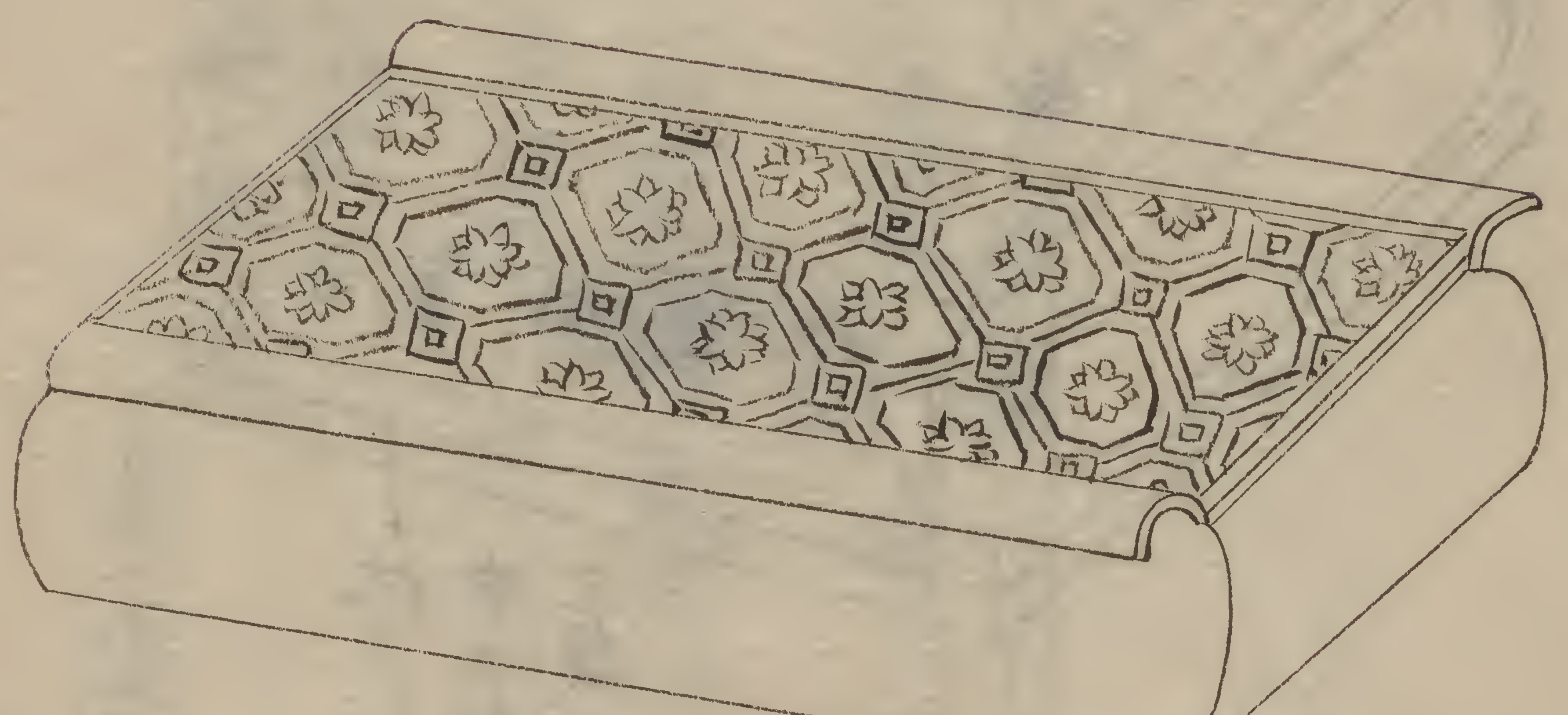
是ハ凡入假或其外何ニテモ御入

筆船

桐ニテ造

蓋取假ハ内へ筆入ルナリ

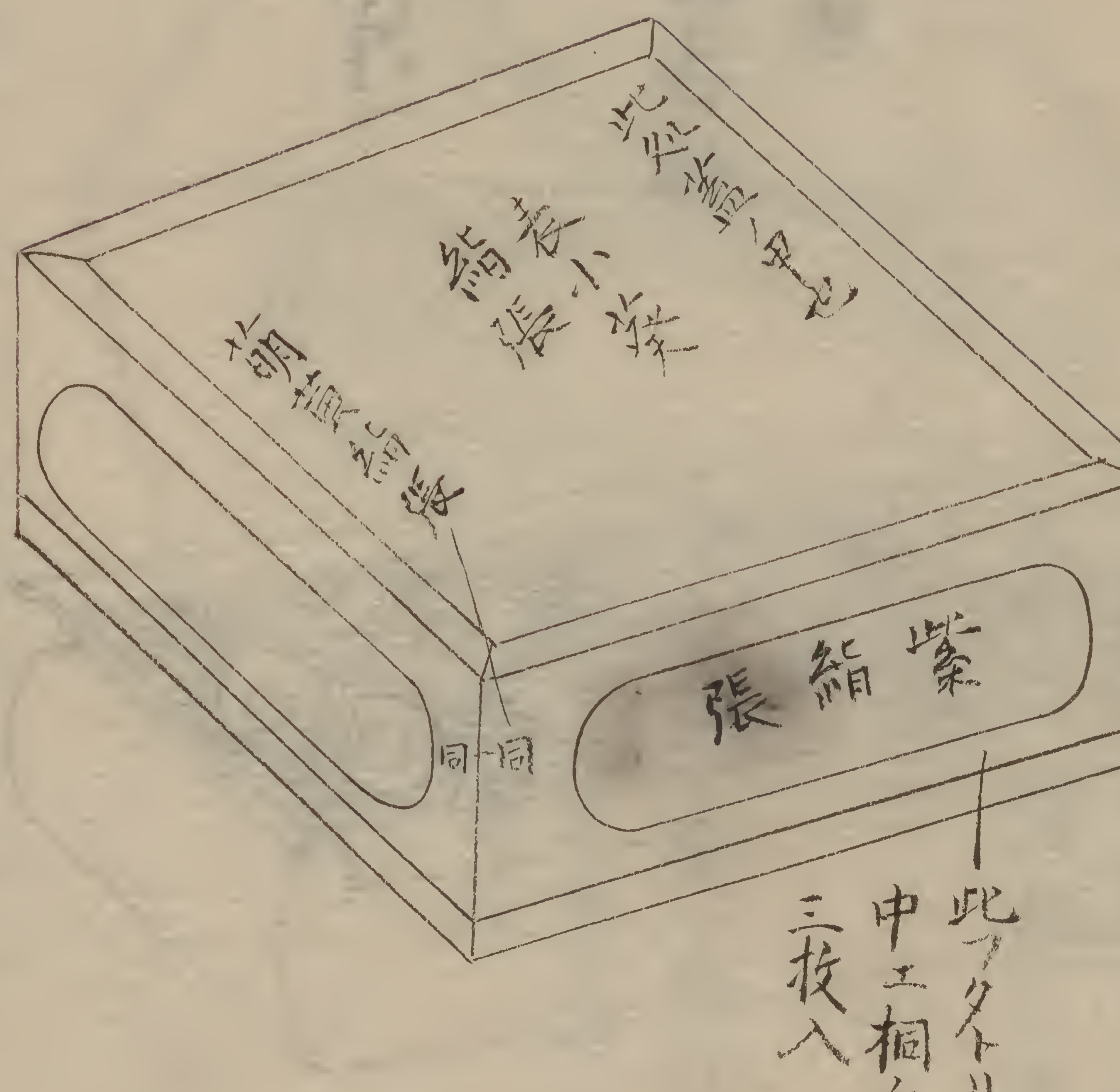
蓋ノ甲萌黄地蜀江錦張



敬書箱

カブセ蓋

御和分御字物
其外分道具
御書物ルイ入レ物也

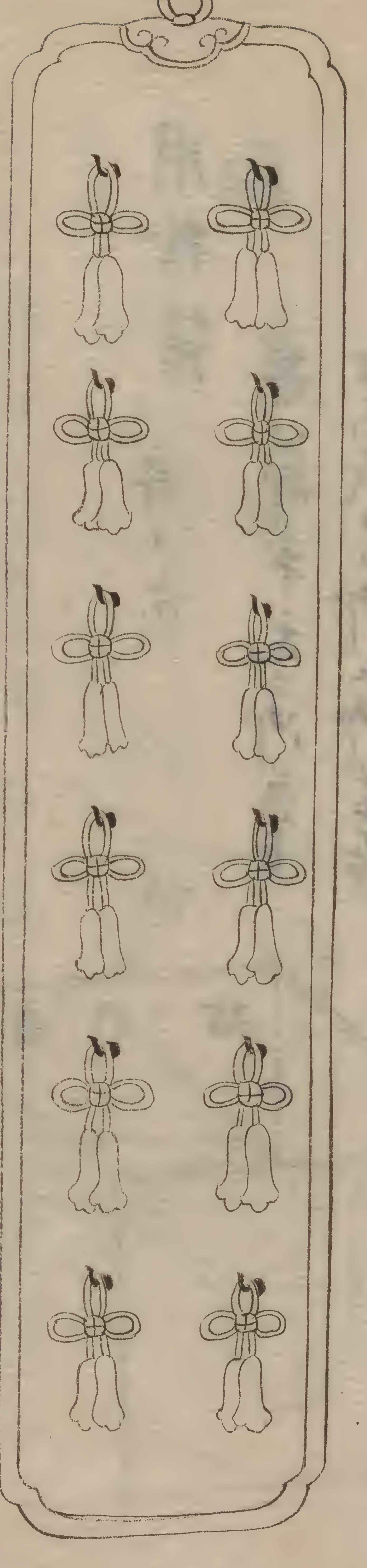


此フタトリれく中エ桐ケス板三枚入

是ハ臺也

掛板大小

釣リ鈬ホ折釘デ

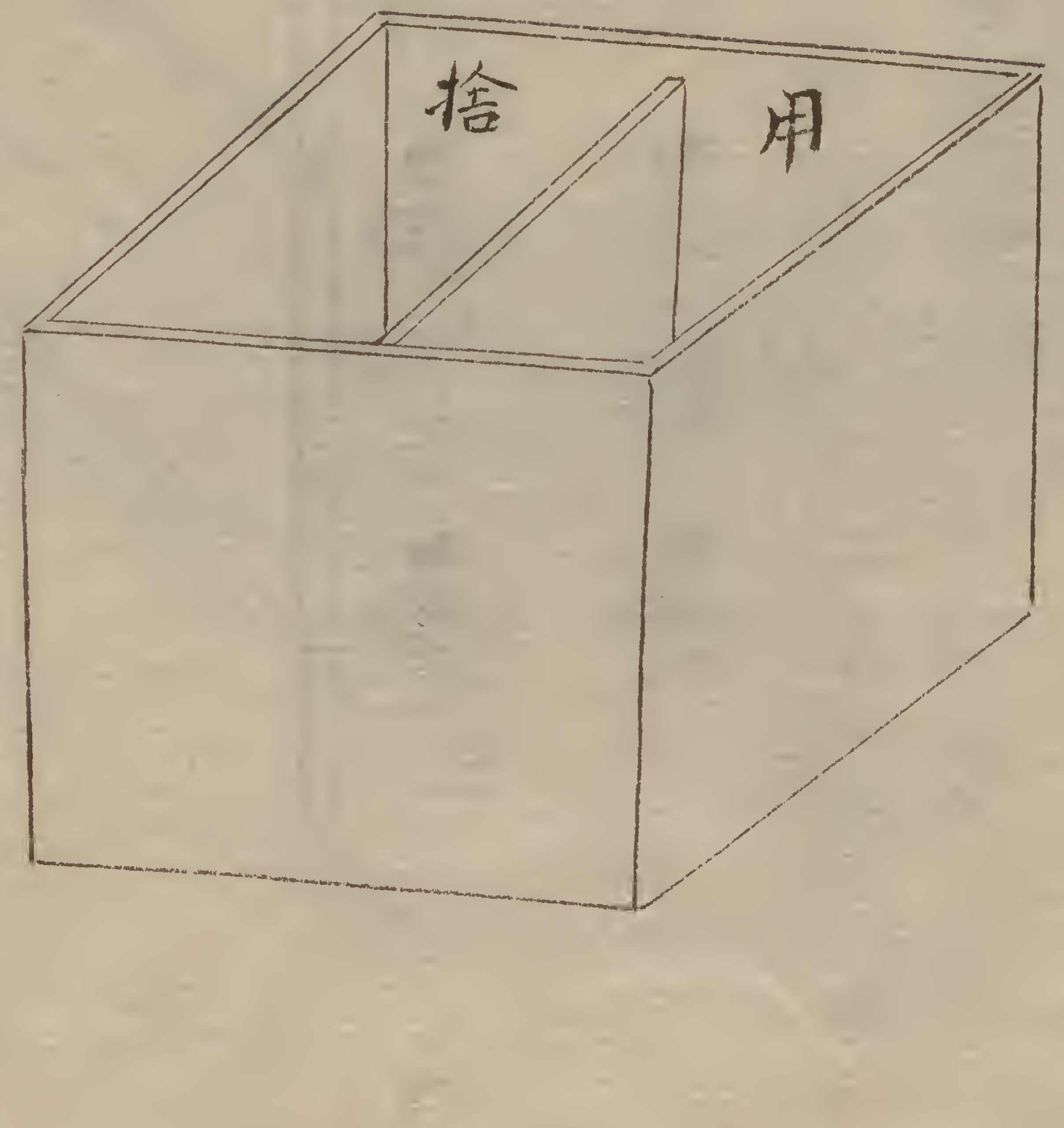


仕成桐板ニテ唐戸面取ニテ本黄黒目折釘
十二本ホ黄紫房十二大小ニヨリ左右ニ掛替ル

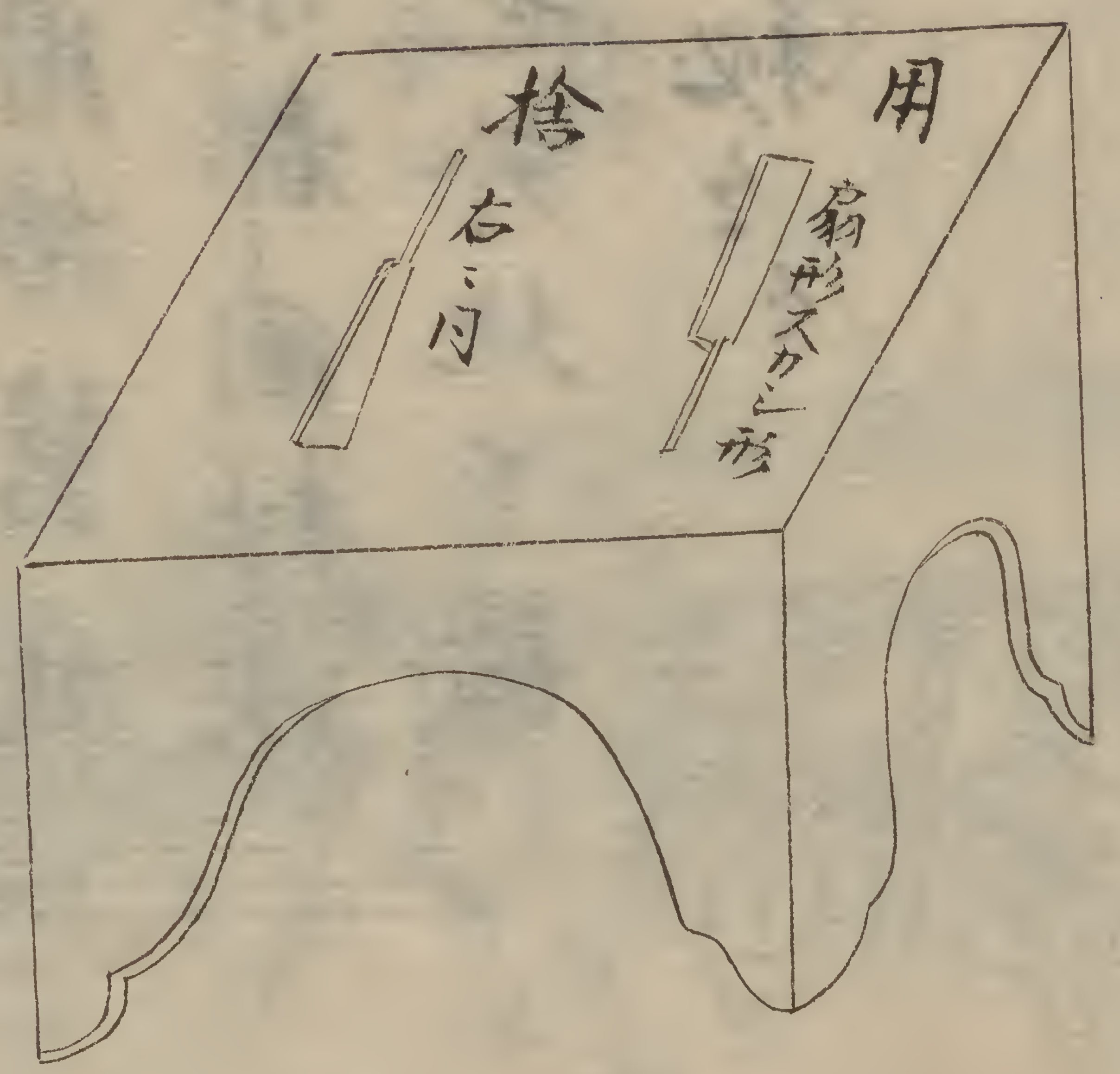
桐ノ木地ニテ

用捨筥　身ノ方

是ハ御手元ニ御差置
被為成候而御反故御落書
被為捌遊候ハ捨文字
御座候方へ御入御用向
御手附ニ而ハ用ノ文字ノ方へ
御入被為成候ハ器ナリ



同　蓋ノ方



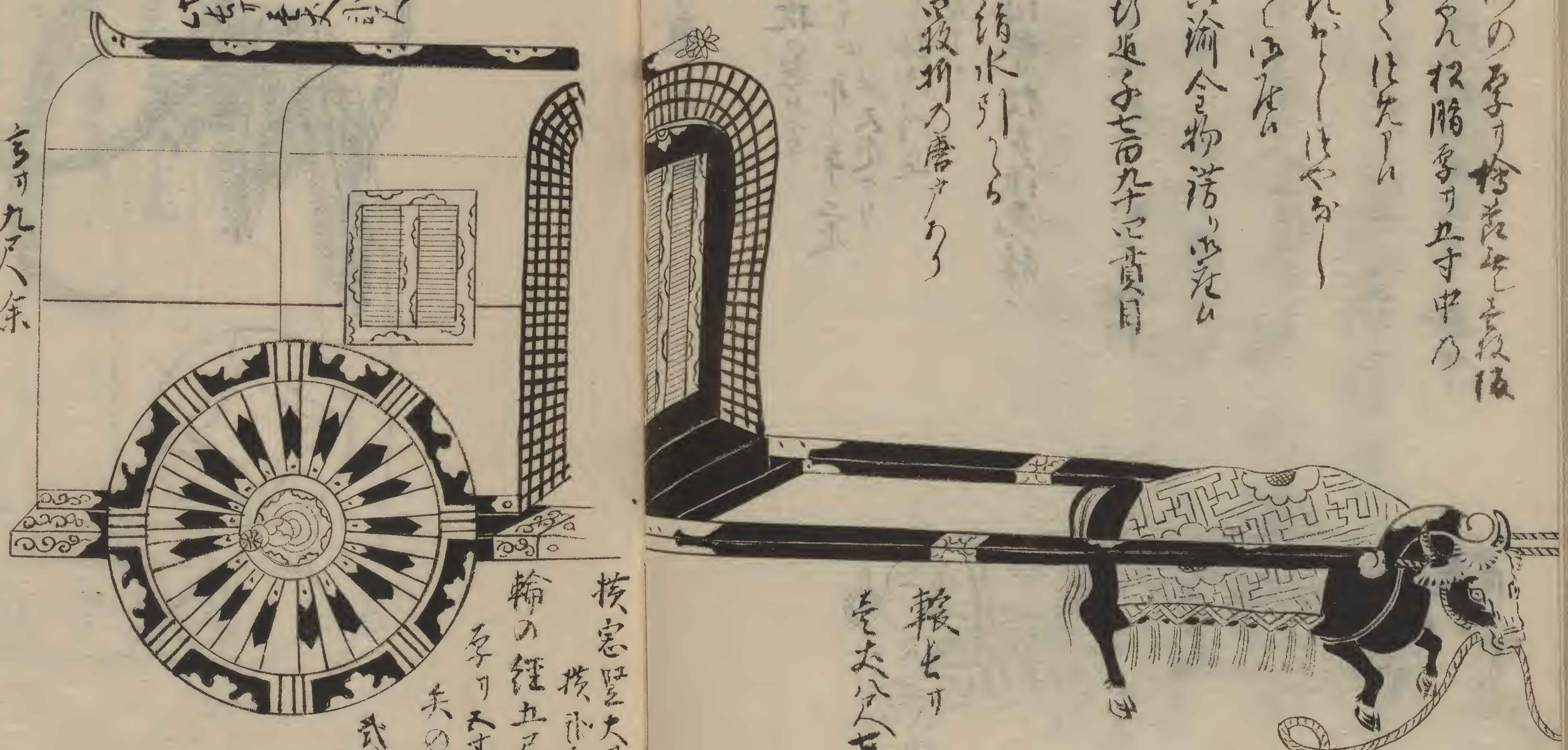
故實用具圖式

自婦利々至用捨筥凡
十六品者則京都岡村淡
路守殿相傳也於地下識
者尓鮮矣可秘々々

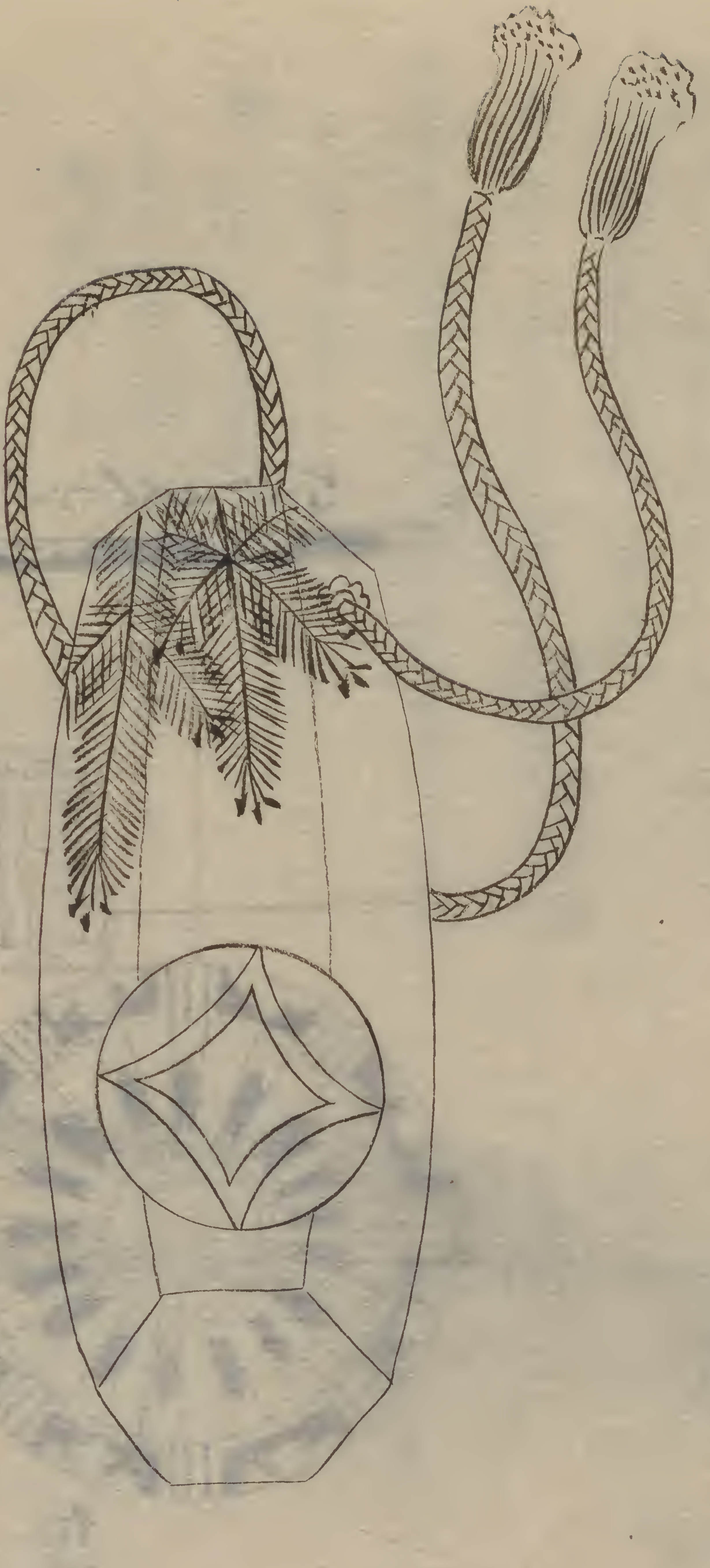
御葬車之圖

一御車牛三疋よく挽馬にて
御車副人と添ヶ候 外ニ牛二疋
メ又疋ナリ
成ノ上刻 御所より蛤御門迄
白衣ヶ候
御出車前後人同勢数多御先静メ
置候
一牛ハ脊繒大紋白綾袷なりかさり組紐
亀甲或ハきまん結引縄等繒糸之
一轅ノ牛類白の牛く濡り付一倍なり
以引廻シ外
一是より御皆牛二疋白丁弐十人手にて
引候由牛一生涯ハ拾又石活牛ハ拾石ツ
以下ゟ飼殺く

一御榻大さ七つの厚サ檜若ゑしき枚張
うく厚サ五寸ちやん松脂厚サ五寸中の
御榻の外朱うくはたん
一御車内黒塗とれかしはやかし
外濃栗皮黒と申候
御車も簾も其綸金物落り申候
一御車一切手凡十切返子七百九十匁貫目
凡三万両なり
一御簾二重内白絹水引うら
むか簾の内と最物の唐かろう
蜘淀ありかん



ぶり〱

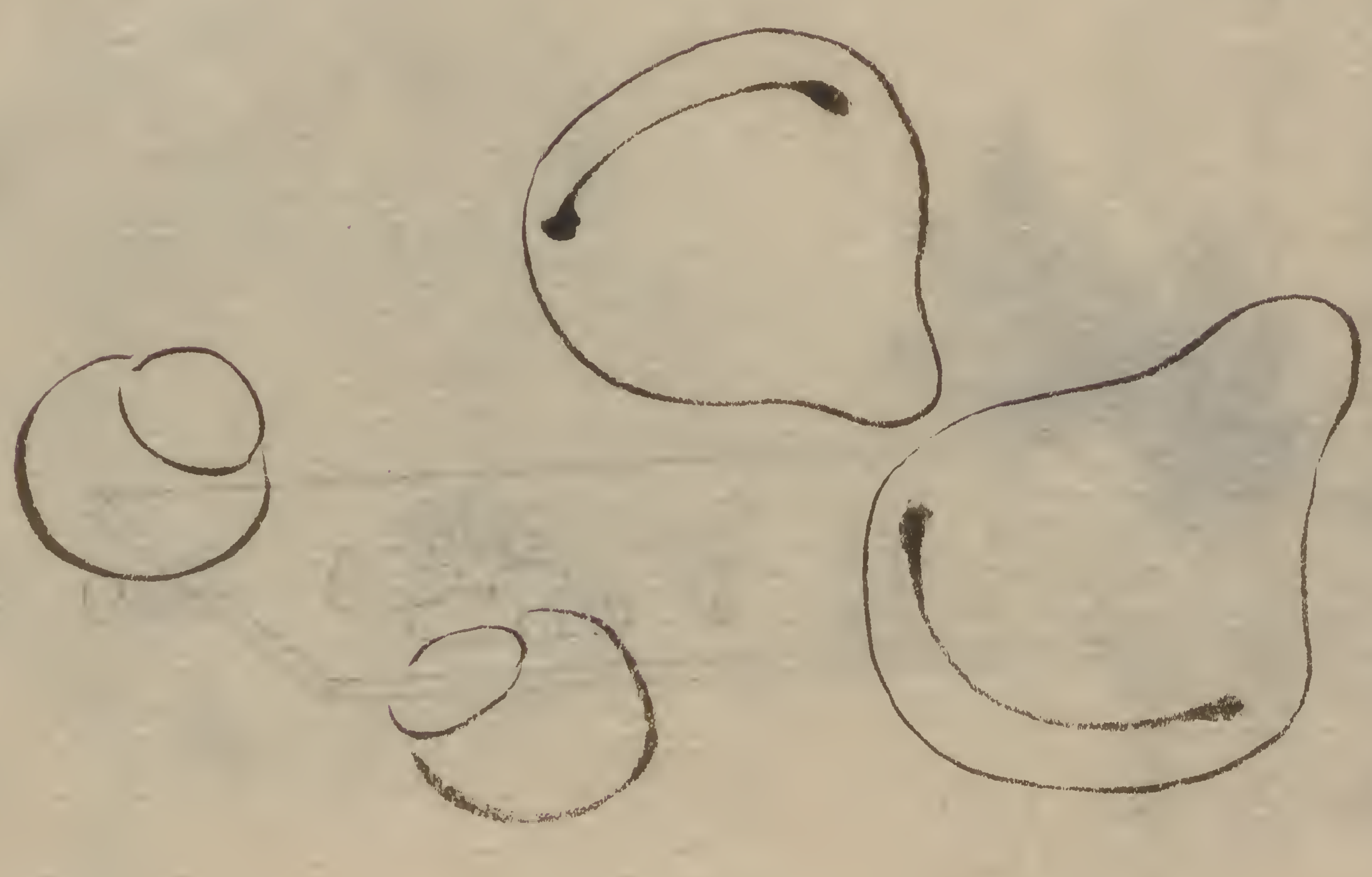


羽子板のごとく筒並松の模様
六角にして中ふくらかなるものあれ
ま玉はさくけり不川かしのとし

毬杖

羽子板のごとし
筒並松と岩小花
綫造る彼舞台これ
上ふてあるやうなる
後ろの厨と號

鈴

涼茶焼　白むすやき

はがく
涼とおかし